

自然と調和するスローな町

2011年にチッタスローに登録されたイエニバザル。

自ら育てた作物を食し、生活の一部として伝統文化を育む。

そんな人々の暮らしに触れると、チッタスローの本質を自然と理解できるような気がする。

アイドゥン県は一部をエーゲ海に接する東西に細長い県。そのほぼ中央にイエニバザル (Yenipazar) がある。海のない町で、周囲を山に囲まれているが、エーゲ海地域特有の明るい陽射しが町全体を包んでいる。のどかなのにどこか心浮き立つ雰囲気満ちているのは、この日差しのおかげかもしれない。

イエニバザルの町に足を踏み入るとすぐに見えてくるのは広大な畑だ。ここでは野菜や果物、小麦などが良く育ち、人々は自分たちが育てた農作物を伝統

的な調理法で日々食している。生産者や料理の由来もよく知らずに口にすることが当たり前になっている現代人にとって、イエニバザルの食生活はシンプルで理にかなった理想的なスタイルに見える。これぞまさにスローフードであり、この町がチッタスローになるべくしてなった理由の一つだろう。

トルコには大きく分けて2種類のピザがある。一つは薄い生地とひき肉を使うラフマジュン。もう一つは厚めの生地に肉や野菜、チーズなどいろいろな具

を乗せるピデだ。イエニバザルで有名なのはピデの方。町の中にもピデを提供するレストランが多数あり、ぜひ味わいたい一品だ。

地元の味や工芸品などを求めるなら、ローカルバザールに足を運んでみてはどうだろう。どの屋台でも地元の人々が育てた食材や加工品を販売しているので、イエニバザル産ローカルフードを気軽に試すことができる。新鮮な野菜やフルーツ、焼き立てのパン、手作りのジャムやドレッシング、そしてレース編みやファブリック、アクセサリーなど面白い土産物になる。いずれも旅行者向けの商品として作られているのではなく、そもそも自分たちが消費するために

作っているのがいかにもイエニバザルらしいところ。旅人はそれをおすすめしてもらおう、そんな感覚で見て回るのがいいたらう。

また、イエニバザルに来たら必ず訪れてほしい場所が、ヨルク・アリ・エフェ博物館だ。ヨルク・アリは祖国解放戦争とトルコ共和国設立に貢献したいわばヒーロー。イエニバザルにあったヨルクの家は彼の死後、2001年に改修して現在の博物館となり、庭園には墓が置かれている。もともとの家は1980年代に焼失したが、アイドゥンの文化省の提案により、博物館へと姿を変えた。

イエニバザルには、アナトリア地方の西部で広く踊られているゼイバクに似た伝統舞踊が伝わる。イエニバザルの町と人々にとって重要なヨルク・アリ・エフェ博物館では、時にこの伝統のダンスが披露される。カラフルな衣装を身にまとった人々の踊りは旅行者の目を引くものだが、彼らはこれを観光素材として提供してはいない。食と同様、自らの生活の中に溶け込む文化として、彼らのために踊っているのだ。

郊外には古代都市も

イエニバザルの郊外には、町から車で10分ほどの場所に古代都市 Orthosia

ドライイチジク発祥の地

古代ギリシャやローマの文明、また聖書において、イチジクは神聖で象徴的な果物として扱われてきた。トルコでは南西部で生産が盛んで、イエニバザルを含むアイドゥン地方では上質なイチジクが採れることで知られている。なかでもドライイチジクはトルコが発祥の地で、生産国としても輸出国としても有名だ。

ドライイチジクは自然の太陽の下、天日干しで乾燥させるため、栄養価が高く、長期保存が可能。食物繊維が豊富で、カルシウムやマグネシウム、ビタミンなどミネラル成分の宝庫として名高い。ドライイチジク100gに含まれるカルシウムは牛乳よりも多いため、牛乳アレルギーの子供へのカルシウム供給源としても有効だ。また、悪玉コレステロール値を下げる働きがあるので、心臓病や静脈疾患の予防にもなるとされている。



なお、長期保存にはビニール袋がガラス容器に入れ、湿気がなく、乾燥した場所に置くのが望ましい。



の遺跡がある。古代都市の始まりは紀元前7世紀にさかのぼり、時の権力者たちの興亡に翻弄されてきた歴史を刻んでいる。現在も劇場や墓などビザンチン様式の建物がよく保存されていて、旅行者も気軽に見学することができる。少し離れた場所にはローマ風呂の廃墟もあり興味深い。

また、遺跡の一部は西へ約90km、車で約1時間20分のアイドゥン博物館にも展示されている。豊富なコレクションを誇る同博物館は1959年に設立された。1973年に改装され、大きな庭には Orthosia を含む各地の古代都市から出土した彫刻や彫像、墓石、祭壇などが

展示されている。

建物には3つのセクションがあり、考古学セクションにはヘレニズム、ローマ、ビザンチン、セルジューク、オスマン時代の遺物を時系列に展示。硬貨セクションではギリシャ、ローマ、ビザンチン、セルジューク、オスマンといった各時代のさまざまな金、銀、銅、青銅の硬貨を見ることができる。

さらにオブジェクトセクションには各地の芸術作品が展示されている。敷物や織り物、ジュエリー、キッチン用品、コーランの原本、剣など、多種多様な文化の痕跡からは奥深い歴史を感じることができる。

Yenipazar



1 イエニバザルは周囲を山に囲まれたのどかな町 2 ピデと呼ばれるピザが有名 3 フルーツ、焼き立てのパンなどを気軽に味わえるローカルバザール 4 郊外には古代都市 Orthosia の遺跡がある 5 ヨルク・アリ・エフェの家は、現在博物館として公開されている



チッタスロー (cittaslow) 「スローシティ」の意。地域独自の生活・歴史文化や自然環境など多様性を重視した町づくり活動。

